

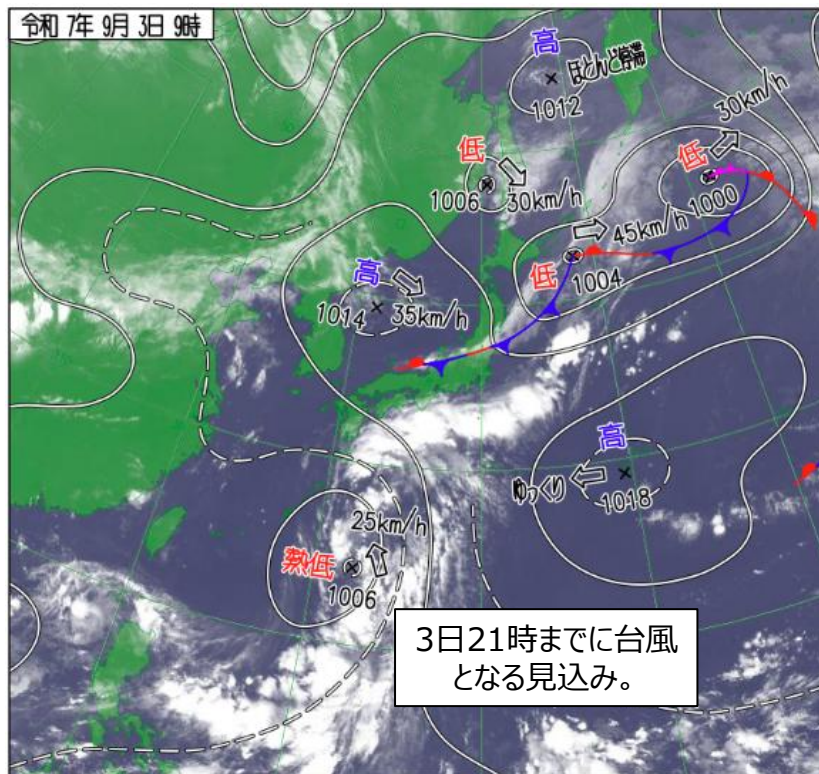
発達する熱帯低気圧に関する解説

大阪管区気象台気象防災部予報課

この資料は、9月3日11時時点の予想に基づいて作成したものですので、最新の気象情報は、気象台ホームページから確認ください。

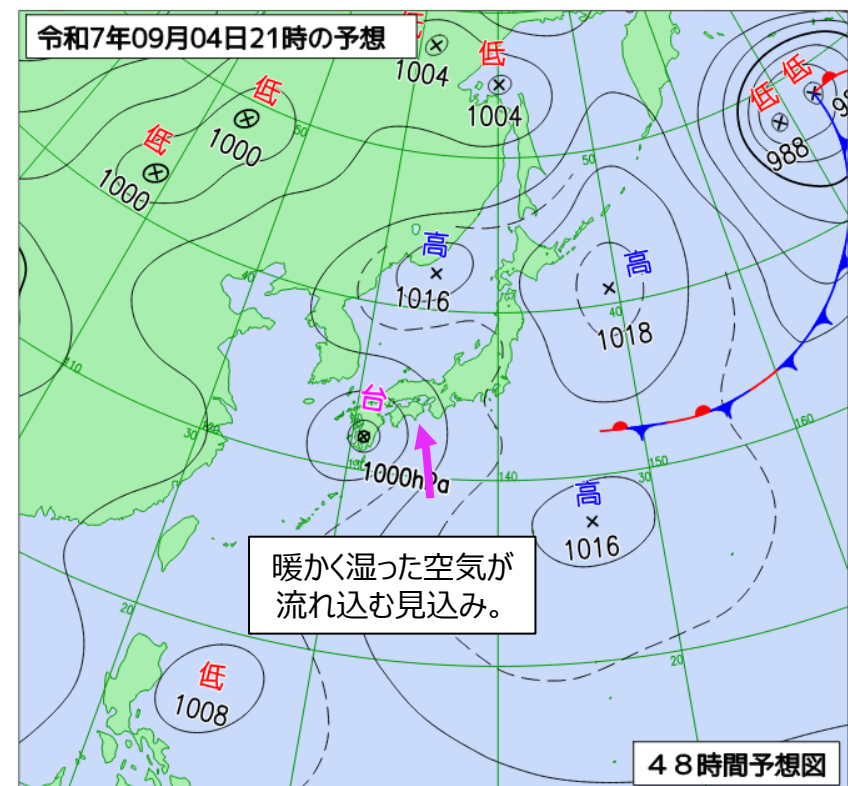
- ① 3日9時現在、南大東島の南南東約220 k mにある熱帯低気圧は1時間に25 k mの速さで北北西に進んでいます。熱帯低気圧は3日21時までに台風となり、その後、進路を東よりに変えて5日日中に近畿地方へ最接近する見込み。
- ② 近畿地方では、台風周辺の暖かく湿った空気の影響により 4日昼過ぎから5日にかけて警報級の大雨となる可能性がある。台風周辺の湿った空気や台風本体の雨雲がかかり続けた場合は、さらに降水量が多くなる可能性がある。
- ③ 台風が南よりの進路となった場合には、台風が予想より発達する可能性がある。

令和7年9月3日09時

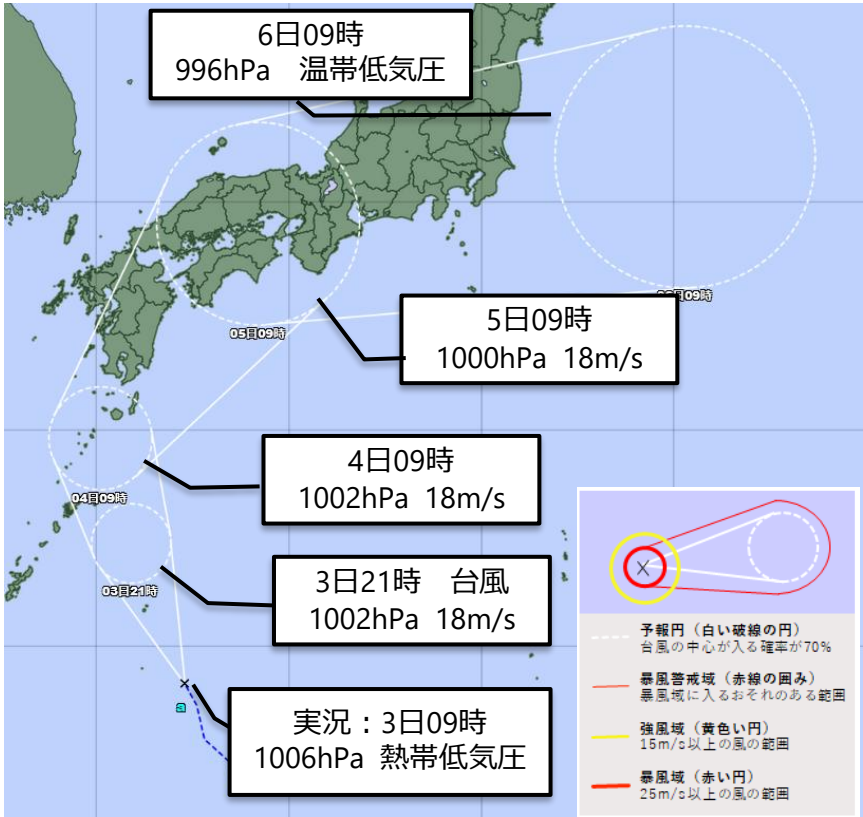


- 熱帯低気圧は3日21時までに台風となる見込み。

令和7年9月4日21時の予想



- 台風周辺の暖かく湿った空気の影響で、局地的に大雨のおそれがある。



3日09時実況	
種別	熱帯低気圧
大きさ	-
強さ	-
存在地域	南大東島の南南東約220km
中心位置	北緯24度05分 (24.1度) 東経132度20分 (132.3度)
進行方向、速さ	北北西 25 km/h (14 kt)
中心気圧	1006 hPa
中心付近の最大風速	15 m/s (30 kt)
最大瞬間風速	23 m/s (45 kt)

3日21時予報	
種別	台風
強さ	-
存在地域	奄美大島の南東約180km
予報円の中心	北緯27度25分 (27.4度) 東経130度55分 (130.9度)
進行方向、速さ	北北西 35 km/h (18 kt)
中心気圧	1002 hPa
中心付近の最大風速	18 m/s (35 kt)
最大瞬間風速	25 m/s (50 kt)
予報円の半径	100 km (55 NM)

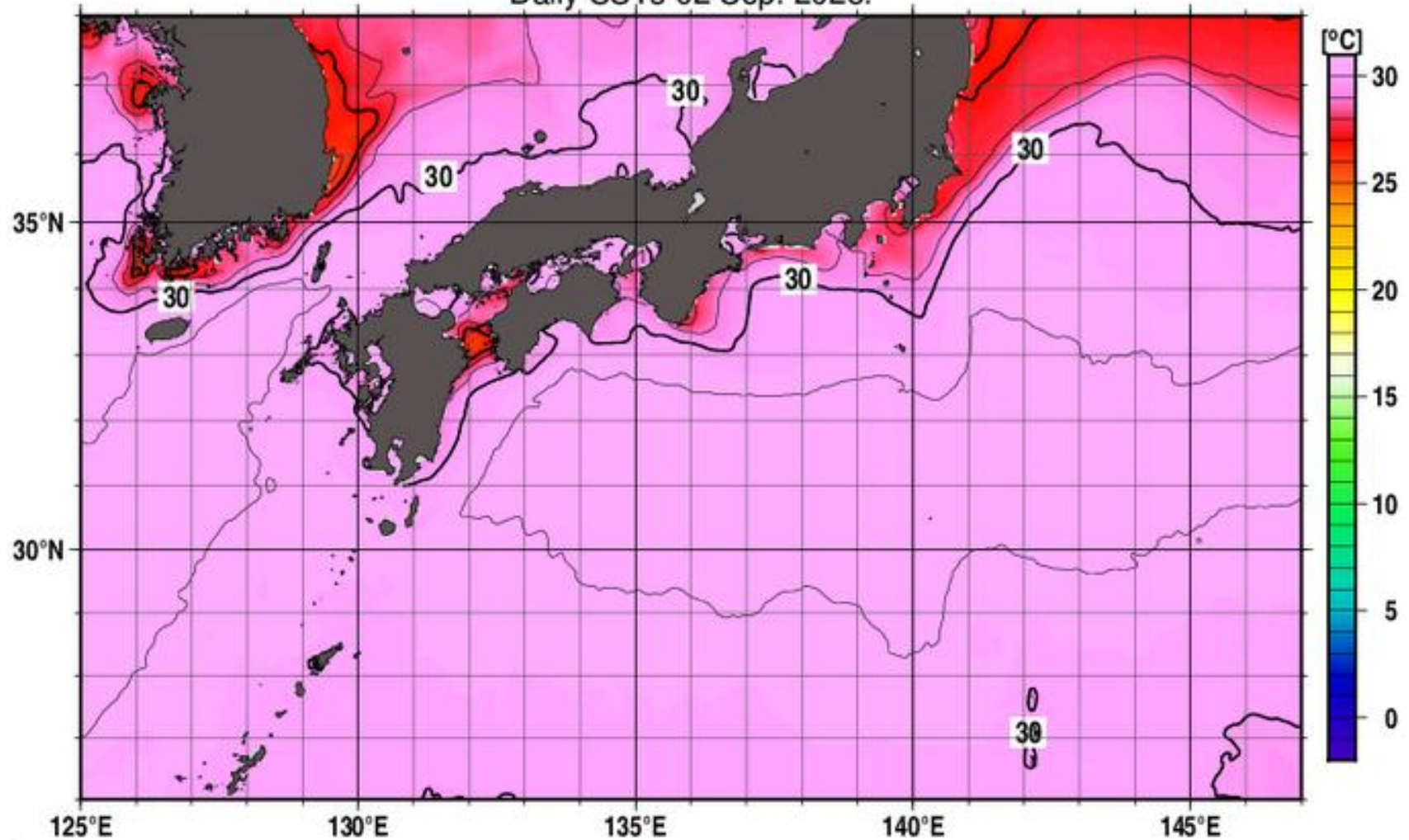
4日09時予報	
種別	台風
強さ	-
存在地域	屋久島の南南西約70km
予報円の中心	北緯29度50分 (29.8度) 東経130度05分 (130.1度)
進行方向、速さ	北北西 25 km/h (13 kt)
中心気圧	1002 hPa
中心付近の最大風速	18 m/s (35 kt)
最大瞬間風速	25 m/s (50 kt)
予報円の半径	130 km (70 NM)

5日09時予報	
種別	台風
強さ	-
存在地域	西日本
予報円の中心	北緯34度30分 (34.5度) 東経134度10分 (134.2度)
進行方向、速さ	北東 30 km/h (15 kt)
中心気圧	1000 hPa
最大風速	18 m/s (35 kt)
最大瞬間風速	25 m/s (50 kt)
予報円の半径	240 km (130 NM)

6日09時予報	
種別	温帯低気圧
強さ	-
存在地域	日本の東
予報円の中心	北緯35度55分 (35.9度) 東経145度20分 (145.3度)
進行方向、速さ	東 45 km/h (23 kt)
中心気圧	996 hPa
最大風速	20 m/s (40 kt)
最大瞬間風速	30 m/s (60 kt)
予報円の半径	310 km (165 NM)

熱帯低気圧付近の海水温が高く、3日21時までに台風となる見込

Daily SSTs 02 Sep. 2025.



近畿地方 今後の気象状況 3日11時現在

		3日				4日								5日			
		12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-6時	6-12時	12-18時	18-24時
		昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く	未明	明け方	朝	昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く				
台風最接近																	
大雨・洪水 (ミリ)	近畿北部	30	40	40	40	0	0	1	10	20	20	20	20	30	30	30	
	近畿中部	40	40	40	40	5	5	5	20	40	40	50	50	50	50	30	
	近畿南部	40	40	40	20	10	10	10	20	30	50	50	50	50	50	30	
雷	近畿北部	注	注	注	注				注	注	注	注	注				
	近畿中部	注	注	注	注				注	注	注	注	注				
	近畿南部	注	注	注	注				注	注	注	注	注				
暴風 (メートル)	近畿北部陸上	6 ↓	6 ↓	5 ↓	4 ↗	3 ↗	3 ↗	3 ↗	5 ↗	5 ↗	8 ↑	8 ↑	8 ↑				
	近畿北部海上	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	10 ↗	10 ↗	10 ↑	10 ↑				
	近畿中部陸上	6 ↗	8 ↗	8 ↗	6 ↗	5 ↗	5 ↗	6 ↗	6 ↗	10 ↗	12 ↗	12 ↗	12 ↗	12	12	12	12
	近畿中部海上	8 ↑	10 ↗	10 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	12 ↗	15 ↗	15 ↗	15 ↗	15	15	15	15
	近畿南部陸上	6 ↗	6 ↗	4 ↗	4 ↗	6 ↗	6 ↗	6 ↗	6 ↗	12 ↗	12 ↗	12 ↗	12 ↗	12	12	12	12
	近畿南部海上	8 ↑	8 ↑	8 ↑	8 ↑	8 ↗	8 ↗	8 ↗	8 ↗	15 ↗	15 ↗	15 ↗	15 ↗	15	15	15	15
波浪 (メートル)	近畿北部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	近畿中部	1	1	1.5	1.5	1.5	1.5	2	2	2	2	2.5	2.5	3	3	3	3
	近畿南部	1.5	1.5	1.5	1.5	2	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3	3	4	4	4	4
高潮 (メートル)	近畿北部	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6	0.5	0.4	0.5				
	近畿中部	0.4	0.6	1	1	0.6	0.4	0.2	0.2	0.5	0.7	1	1				
	近畿南部	0.5	0.6	0.5	0.4	0.5	0.5	0.1	0	0.6	0.8	0.7	0.4				

警報級

注意報級

: 最接近

: 早期注意情報 [中]

・1時間降水量

	3日	4日	5日
近畿北部	40ミリ	20ミリ	30ミリ
近畿中部	40ミリ	50ミリ	50ミリ
近畿南部	40ミリ	50ミリ	50ミリ

・24時間降水量

	3日12時~4日12時	4日12時~5日12時	5日12時~6日12時
近畿北部	80ミリ	80ミリ	50ミリ
近畿中部	80ミリ	150ミリ	50ミリ
近畿南部	80ミリ	200ミリ	50ミリ

・風 () は瞬間風速

	3日	4日	5日
近畿北部 陸上	6 (20未満)メートル	8 (20未満)メートル	8 (20未満)メートル
近畿北部 海上	8 (20未満)メートル	10 (20)メートル	10 (20)メートル
近畿中部 陸上	8 (20未満)メートル	12 (25)メートル	12 (25)メートル
近畿中部 海上	10 (20)メートル	15 (25)メートル	15 (25)メートル
近畿南部 陸上	6 (20未満)メートル	12 (25)メートル	12 (25)メートル
近畿南部 海上	8 (20未満)メートル	15 (25)メートル	15 (25)メートル

・波

	3日	4日	5日
近畿北部	1メートル	1メートル	1.5メートル
近畿中部	1.5メートル	2.5メートル	3メートルうねり
近畿南部	1.5メートル	3メートルうねり	4メートルうねり

※今後の台風の進路により変わる可能性もあります。気象庁ホームページ等で最新の台風情報等を参照ください。

警報級 注意報級

- | ・波 | 3日 | 4日 | 5日 |
|----|---------|-------|---------|
| | 0.5メートル | 1メートル | 1.5メートル |

: 早期注意情報 [中]

7

細分名	雨			
	5日	6日	7日	8日
〔滋賀県〕 滋賀県	－	－	－	－
〔京都府〕 京都府	中	－	－	－
〔奈良県〕 奈良県	中	－	－	－
〔大阪府〕 大阪府	中	－	－	－
〔兵庫県〕 兵庫県	中	－	－	－
〔和歌山県〕 和歌山県	中	－	－	－

- 24時間降水量（4日12時～5日12時）
北中部 150ミリ
南部 200ミリ
- 24時間降水量（5日12時～6日12時）
北中部 50ミリ
南部 50ミリ

- ◆ 熱帯低気圧から変わる台風の影響で、近畿地方では大雨による土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水などのおそれがあります。お住いの地域がどのような災害が起こりやすいかハザードマップ等で確認するなど、台風への十分な備えをお願いします。
- ◆ 近畿地方では台風接近前の4日昼過ぎから5日にかけて大雨となるおそれがあります。
- ◆ 台風の進路が南よりとなった場合は台風が予想より発達して、近畿南部を中心に予想より風が強まる可能性があります。

今後の予想を含めた最新の情報は、以下からご利用ください。

- 気象警報・注意報（大雨、洪水、暴風（雪）、波浪、高潮、大雪などによる災害への警戒・注意を呼びかける）

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=warning>

- キキクル(危険度分布)（どこで土砂災害、浸水害、洪水害の危険度が高まると予測されているかを地図上で表示）

土砂キキクル(危険度分布) <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land>

浸水キキクル(危険度分布) <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:inund>

洪水キキクル(危険度分布) <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:flood>

- 各地の気象情報（気象概況や大雨の見通し）

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=information&element=information>

- 台風情報（台風の位置・強さ・速度などの解析・予報、大雨や暴風の見通し）

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=typhoon>

- 指定河川洪水予報（国や都道府県の管理する主な河川の氾濫の危険度を予測）

<https://www.jma.go.jp/bosai/flood/>

- 土砂災害警戒情報（命に危険が及ぶ土砂災害の発生が切迫したときに嚴重な警戒を呼びかける）

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=warning>

- 最新の気象データ（雨雲の動き（降水・雷・竜巻ナウキャスト）、今後の雨、雨や風の観測データ、衛星画像）

<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>

<https://www.jma.go.jp/bosai/kaikotan/>

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/pre_rct/index24_rct.html

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/wind_rct/index_mxwsp.html

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=himawari>

- 14か国語による防災気象情報の提供

<https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/multi.html>

- 避難行動判定フロー・避難情報のポイント（内閣府（防災担当））

http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/pdf/point.pdf



気象庁HPのバナーをご利用ください。



@JMA_bousai

気象庁公式の防災情報アカウントを開設しました。台風接近や大雨のおそれがある場合等に、現況や今後の見通し、防災上の留意点、緊急会見の内容等を解説します。

参考資料：5段階の警戒レベルと防災気象情報

気象状況	気象庁等の情報		市町村の対応	住民が取るべき行動	警戒レベル
数十年に一度の大雨	大雨特別警報	災害切迫 キキクル	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	5
<警戒レベル4までに必ず避難！>					
大雨の数時間～2時間程度前	土砂災害警戒情報 高潮警報 高潮特別警報	危険	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
大雨の半日～数時間前	※1 大雨警報 洪水警報 高潮警報に切り替える可能性が高い注意報	警戒	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3
大雨の数日～約1日前	大雨警報に切り替える可能性が高い注意報 高潮注意報 大雨注意報 洪水注意報 早期注意情報 (警報級の可能性)	注意	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制) 第1次防災体制 (連絡要員を配置)	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2
			心構えを一段高める 職員の連絡体制を確認	災害への心構えを高める	1

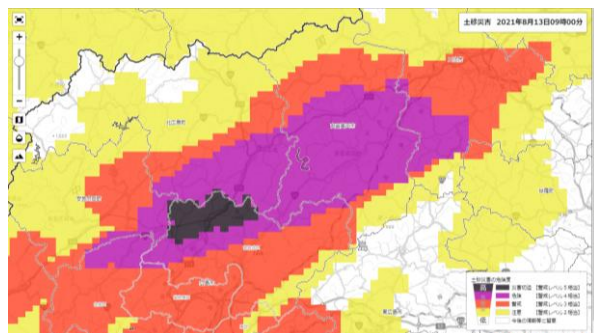
※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき
気象庁において作成

参考資料：「キキクル（危険度分布）」を活用して早めの避難を

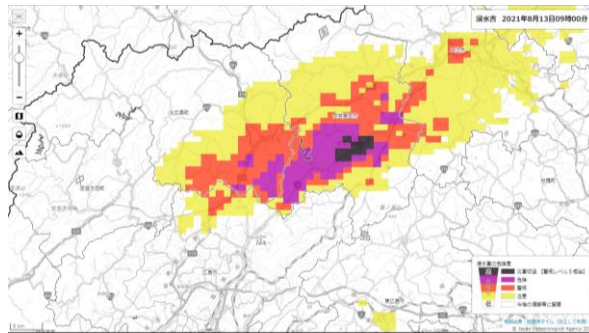
土砂キキクル

大雨警報（土砂災害）の危険度分布



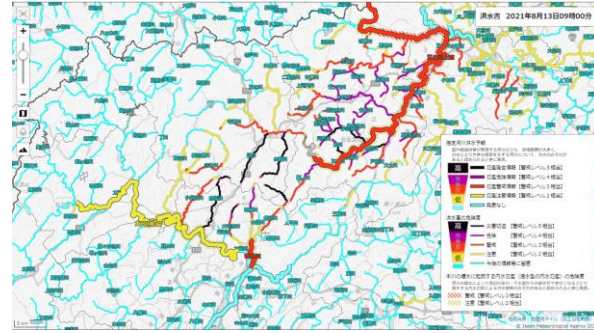
浸水キキクル

大雨警報（浸水害）の危険度分布



洪水キキクル

洪水警報の危険度分布



**「紫」が出現した段階で
速やかに安全な場所に避難する判断を！**

「キキクル」の「災害切迫（黒）」は、大雨による災害が**すでに発生**している可能性が高い状況であり、災害が発生する前にいつも出現するとは限りません。このため、「黒」を待つことなく、「**紫**」が出現した段階で、速やかに安全な場所に避難することが極めて重要です。

参考資料：キキクルの危険度の高まりを見逃さないように

国土交通省
気象庁
Japan Meteorological Agency

ENGLISH Other Languages

文字サイズ変更 標準 大

気象庁防災情報 Twitter 気象庁 Twitter 気象庁 知識・解説 気象庁 YouTube Google 提供 検索

ホーム 防災情報 各種データ・資料 地域の情報 知識・解説 各種申請・ご案内

コンテンツの閲覧方法について（よくお寄せいただく質問）

防災情報

天気

キキクル
（危険度分布）

大雨・台風

地震・火山

被災地域等への支援情報

この雨大丈夫？そんな時
キキクル
大雨・洪水警報の危険度分布

火山登山者向けの
情報提供ページ

津波から身を守るために
津波フラッグ
海岸付近でこの津波フラッグを見たらすぐに避難

キキクルが表示

トップページの
バナーをタップ

ハザードマップと
重ね合わせ

土砂災害 浸水害 洪水

他の災害の危険度
を確認できる
ハザードマップと
重ね合わせできる

ここをクリック

または、このバナーをクリック

雨の強さと降り方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成29年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

1時間雨量 (mm)	予報用語	人の 受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10以上～ 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上～ 30未満	強い雨	どしゃ降り		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		ワイパーを速くしても見づらい
30以上～ 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしていてもぬれる		道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)
50以上～ 80未満	非常に 激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる				

(注1) 大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

参考資料：風の強さ

風の強さと吹き方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成19年4月一部改正)、(平成25年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

風の強さと吹き方(pdf)

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	およその時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその瞬間風速 (m/s)
やや強い風	10以上 15未満	～50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上 20未満	～70km		風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。 看板やトタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。 雨戸やシャッターが揺れる。	
非常に強い風	20以上 25未満	～90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていけないと立ってられない。 飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常で速度で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。 固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	30
	25以上 30未満	～110km					固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。	40
猛烈な風	30以上 35未満	～125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるものがある。 ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	50
	35以上 40未満	～140km					住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	60
	40以上	140km～						

(注1) 強風によって災害が起こるおそれのあるときは強風注意報を、暴風によって重大な災害が発生するおそれのあるときは暴風警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは暴風特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合等は3倍以上になることがあります。

(注3) この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

1. 風速は地形や周りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なることがあります。
2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

台風の大きさと強さ

気象庁は台風のおおよその勢力を示す目安として、下表のように風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。

さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

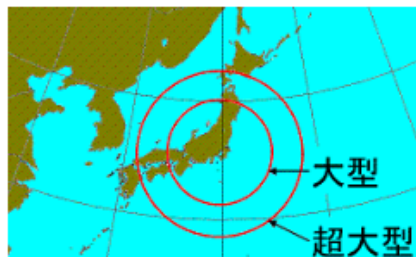
強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s(64ノット)以上～44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上～54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

大型、超大型の台風それぞれの大きさは、日本列島の大きさと比較すると以下のようになります。



台風に関する情報の中では台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で強い台風」のように呼びます。ただし、強風域の半径が500km未満の場合には大きさを表現せず、最大風速が33m/s未満の場合には強さを表現しません。例えば「強い台風」と発表している場合、その台風は、強風域の半径が500km未満で、中心付近の最大風速は33～43m/sで暴風域を伴っていることを表します。

なお、台風情報では暴風域を円形で示します。この円内は暴風がいつ吹いてもおかしくない範囲です。

天気予報では、1日を3時間ごとに区切って、表現しています。

時間帯	一日の時間細分		
00:00～03:00	未明	午前中	
03:00～06:00	明け方		
06:00～09:00	朝		
09:00～12:00	昼前	午後	日中
12:00～15:00	昼過ぎ		
15:00～18:00	夕方		夜
18:00～21:00	夜のはじめ頃		
21:00～24:00	夜遅く		

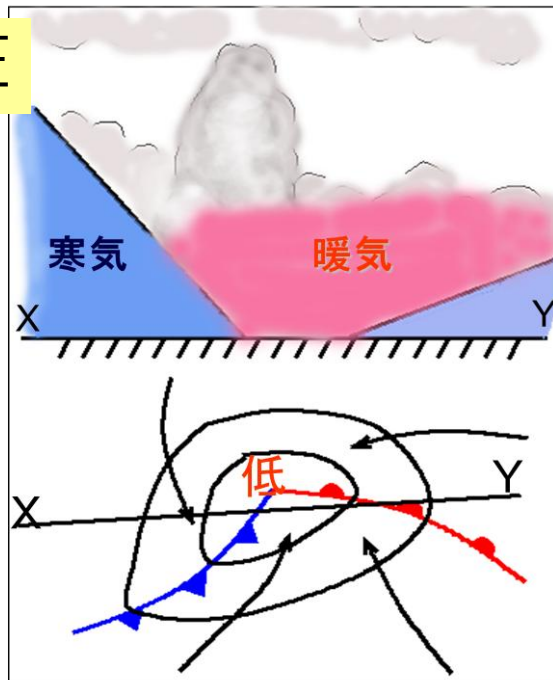
参考資料：台風と熱帯低気圧の違い

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋（赤道より北で東経180度より西の領域）または南シナ海に存在し、なおかつ**低気圧域内の最大風速（10分間平均）**がおよそ17m/s（34ノット、風力8）以上のものを「台風」と呼びます。

参考資料：熱帯低気圧と温帯低気圧の違い

温帯低気圧

寒気・暖気の温度差をエネルギーに発生・発達



X-Yの線で切った断面図

上から見た図

熱帯低気圧

熱帯の大量の暖かく湿った空気をエネルギーに発生・発達

